

だい つう いん だに

大通院谷川

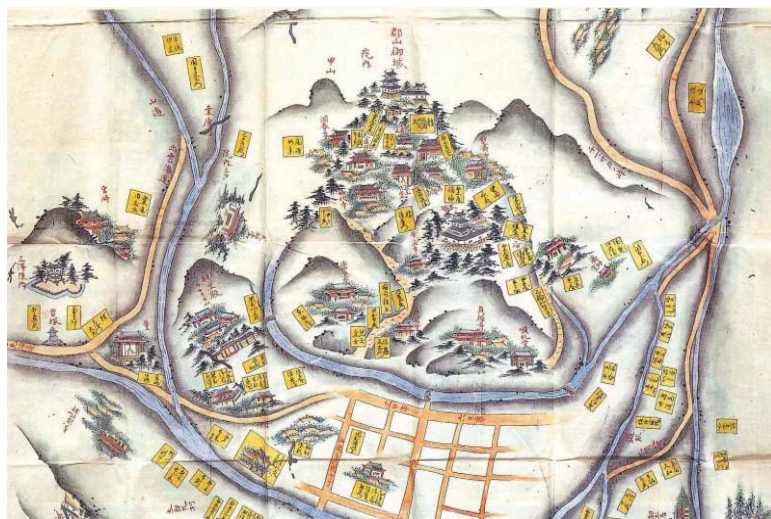
～水と緑豊かな溪流砂防事業～

■事業概要

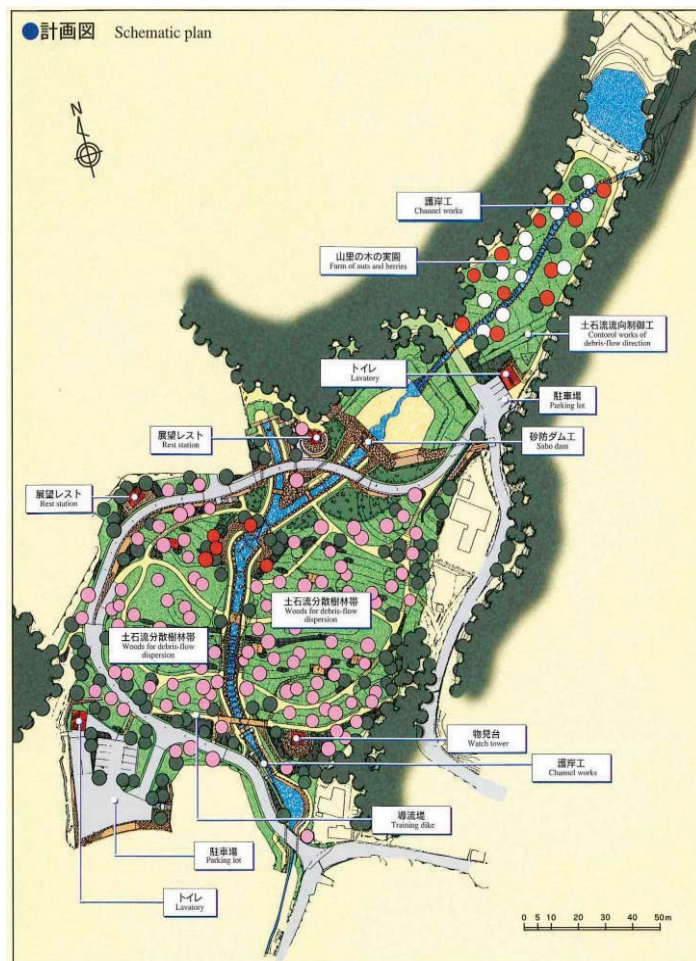
郡山を源として流れる大通院谷川の周辺は、緑豊かな自然にめぐまれており、少年自然の家などの公共施設が整備され、毛利氏に関わる歴史的遺産も多く、郡山全体が国の史跡指定を受けています。

しかし、この地域は急峻な山地に囲まれ、大雨などにより土石流が発生するおそれが高い溪流です。このため、災害を未然に防ぐとともに、自然環境・景観や歴史・文化に配慮し、人々が安心して生活できる地域整備を目的として、「水と緑豊かな溪流砂防事業」を行っています。

■郡山城絵図



■計画図



■郡山城 大通院川の発掘調査

郡山城は建武3年(1336年)に毛利氏が吉田荘に定着して以来の本拠城であり、戦国期に元就が全山に城を拡大しました。城内には郭跡(城や砦のまわりの囲い)や寺院跡もたくさん残っています。



発掘調査によって、大通院谷から毛利時代のものだけでなく、それ以前の郡衙(古代の郡役所)に関連する建物跡なども見つかっています。さらには、古墳・弥生時代のものまで出ています。また、この調査で転石が数多く発見され過去に土石流が発生したものと推察されます。



発掘調査状況
Excavation work



発見された転石群
Boulders excavated from the site

●毛利時代のもの Remains in the 16th century



中国製染付(青花)
Blue and white dish



漆わん
Lacquer ware

大通院谷川

～水と緑豊かな溪流砂防事業～

■水と緑豊かな溪流砂防事業

本事業は、樹林帯が土砂の流出抑制・拡散・堆積に大きな効果を発揮することに着目し、緑の樹林帯により土石流災害を防ごうとする事業です。

その結果、水と緑豊かな環境が整備され、日頃は、緑の砂防公園として人々の憩いの空間が創出できます。

■大通院谷川整備イメージ図



■護岸工・土石流流向制御工



■砂防ダム



■護岸工

